



2026年看護学生 全国アンケート調査結果報告

看護学生の生活実態、経済的背景、
および将来への意識調査

2026年8月 公表

期間：2026年4月10日～6月30日

調査対象：全国の看護師等学校・養成校の学生
(回答数：1,364件)

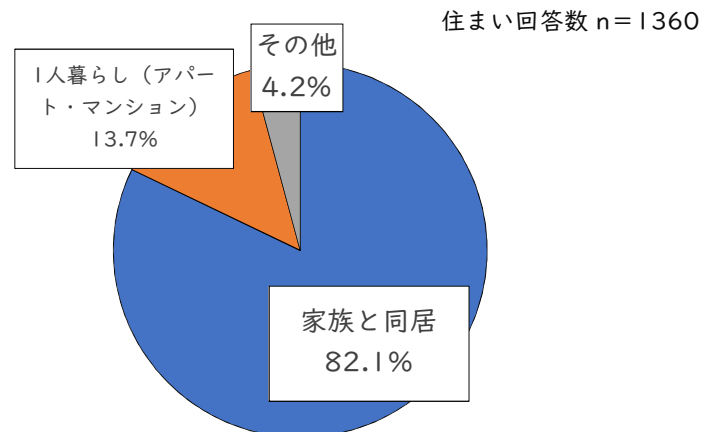
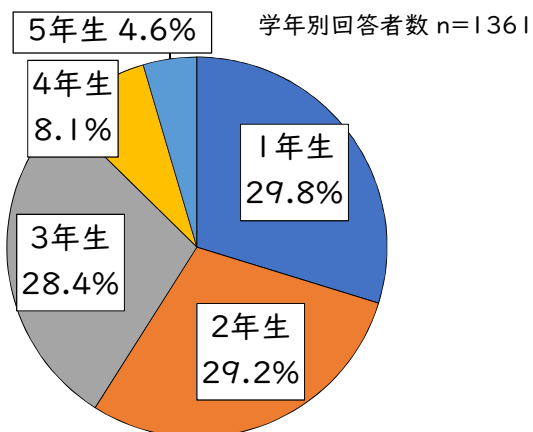
全日本民主医療機関連合会
<https://kirarikango.com/>

回答者の基本属性

①看護学校所在についてn=1361

福岡(366件)、新潟(186件)、北海道(153件)、京都(97件)など、40都道府県の
現役看護学生からのリアルな声が集計されています。

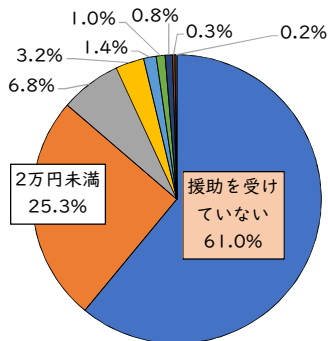
②学年と住まいについて



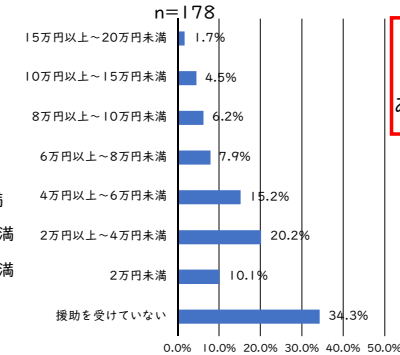
・住まいに関しては、家族同居、一人暮らし(アパート・マンション)、その他の形態に分かれています。

日常の経済実態と生活実感

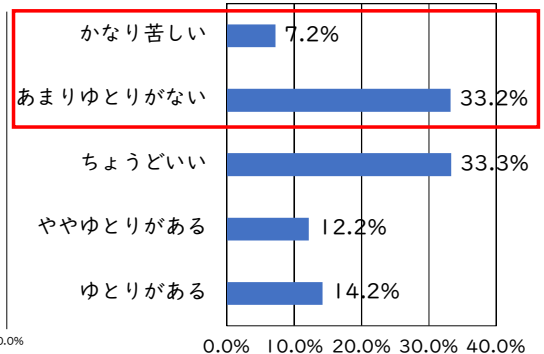
家族からの援助額（1カ月当たり）n=1246



一人暮らし学生の家族からの援助額



生活実感について

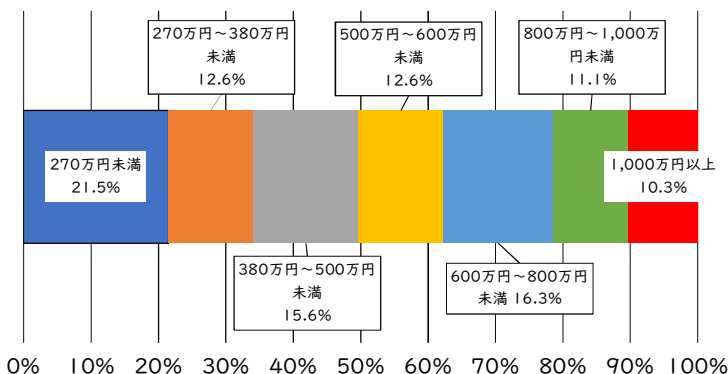


- ・家族からの援助が「なし（受けていない）」が**60%**に達しています。
- ・援助なしの学生が多い中、一人暮らしでは3人に1人が「援助なし」です。
- ・生活実感は、「あまりゆとりがない」「かなり苦しい」が合わせて40.4%を占め、**約4割**の学生が精神的・経済的に追い詰められています。

3

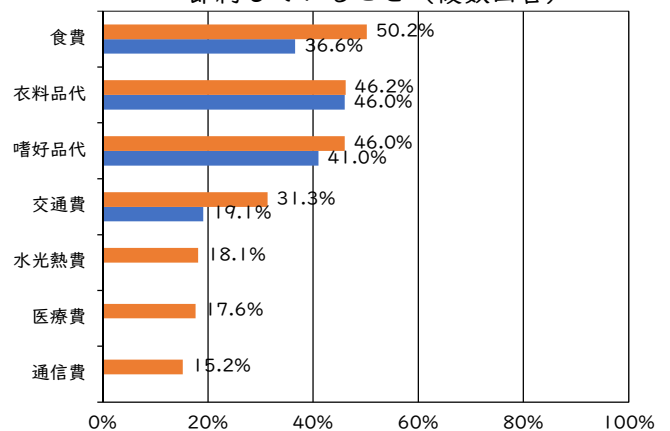
世帯年収は270万未満が最も多い

世帯の年収について（自身のアルバイト収入は含めない）n=620



※「分からない」と回答した607人を除く

節約していること（複数回答）



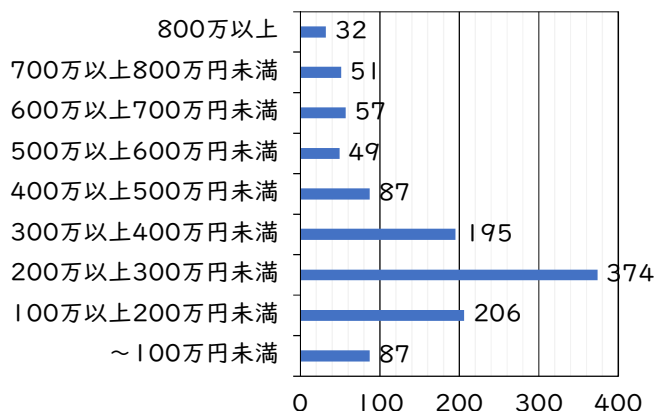
※2026年調査では支出項目の実態をより詳細に把握するため、「医療費」「水光熱費」「通信費（携帯電話料金を含む）」を追加した。

- ・「270万円未満」が21.5%で最も高い、500万円未満が約半数となっています。
- ・食費、衣料品代、交通費、嗜好品代を日常的に節約しています。

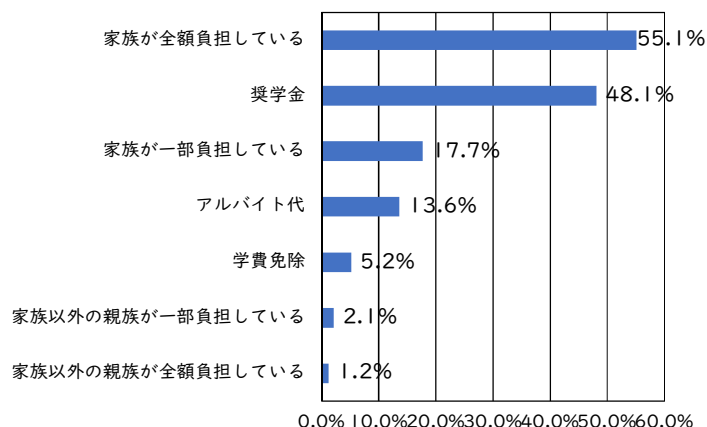
4

数百万規模の重い学費負担

学費(在学期間の総額) n=1138



学費(授業料)は、どのように負担しているか (複数回答) n=1297

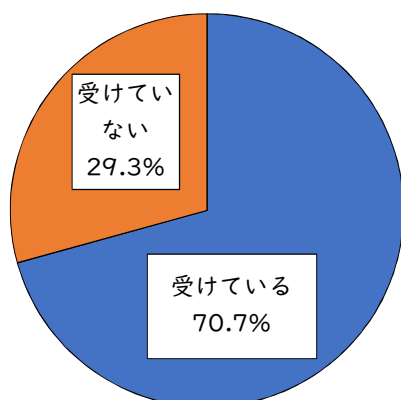


- ・多くの学生が、数百万規模の学費を背負っており、根底に「高い」「やや高い」と感じる強い負担感があります。
- ・主な負担方法は家族による全額・一部負担ですが、学生本人の奨学金やアルバイト代を注ぎ込むケースが多重に重なっています。

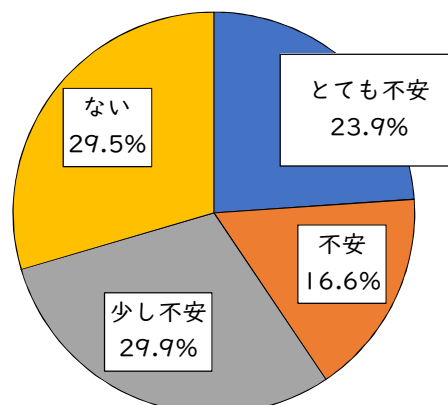
5

奨学金の受給状況と将来への不安

奨学金を受けていますか? n=1349



奨学金返済への不安はありますか n=907

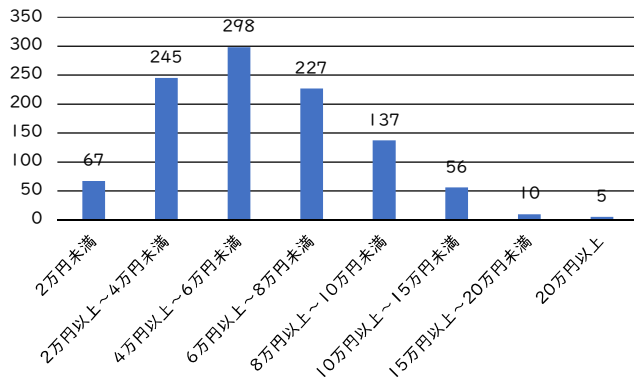


- ・受給している奨学金には、病院・学校等の独自奨学金、日本学生支援機構、県や市などの修学資金などがあり、給付型(返済なし)と貸与型(無利子・有利子)が混在しています。
- ・貸与型(無利子・有利子)を選択せざるを得なかった学生のうち、卒業後の返済総額や返済年数の長さから、**約7割**が将来への不安を抱えています。

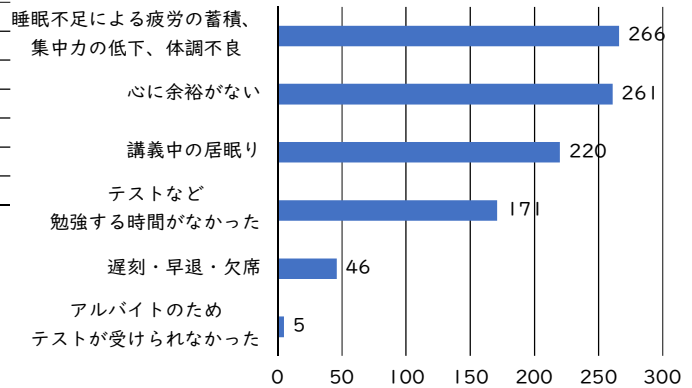
6

アルバイトの現状と学業・体調への影響

1ヶ月のアルバイト収入（平均）



アルバイトによって、学業に支障を来した内容（複数回答）

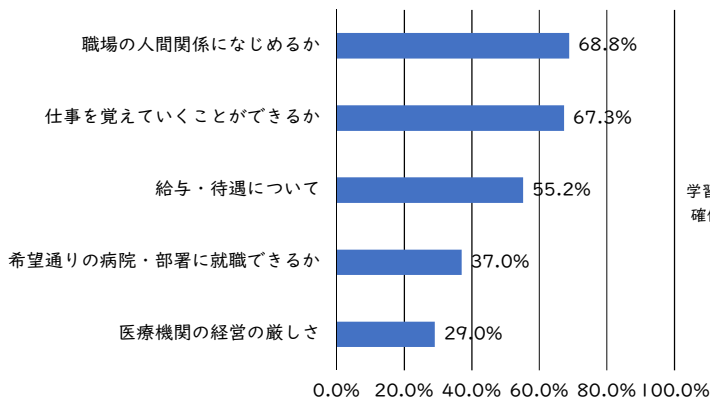


- ・週あたりの日数や、学校がある日・ない日それぞれの平均稼働時間から、学生たちが日常的に労働時間を割いている実態が見て取れます。
- ・一部の学生は深夜時間帯（22時～翌朝5時）にも稼働しており、それに伴い「睡眠不足による疲労の蓄積、集中力の低下、体調不良」といった具体的な支障が出ているケースがあります。

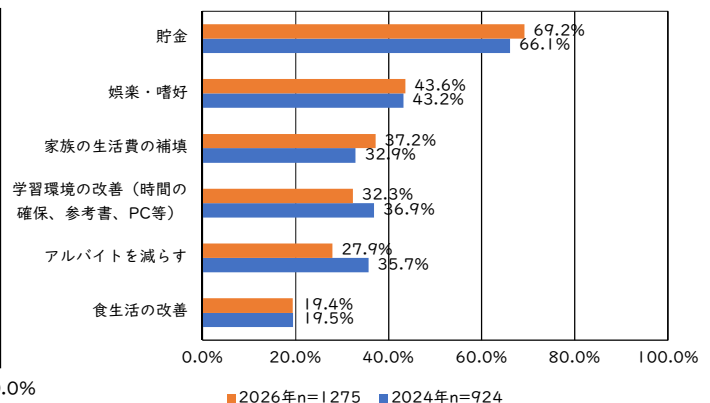
7

看護師としての就業不安

看護師として働くうえでの不安について（複数回答） n=1325



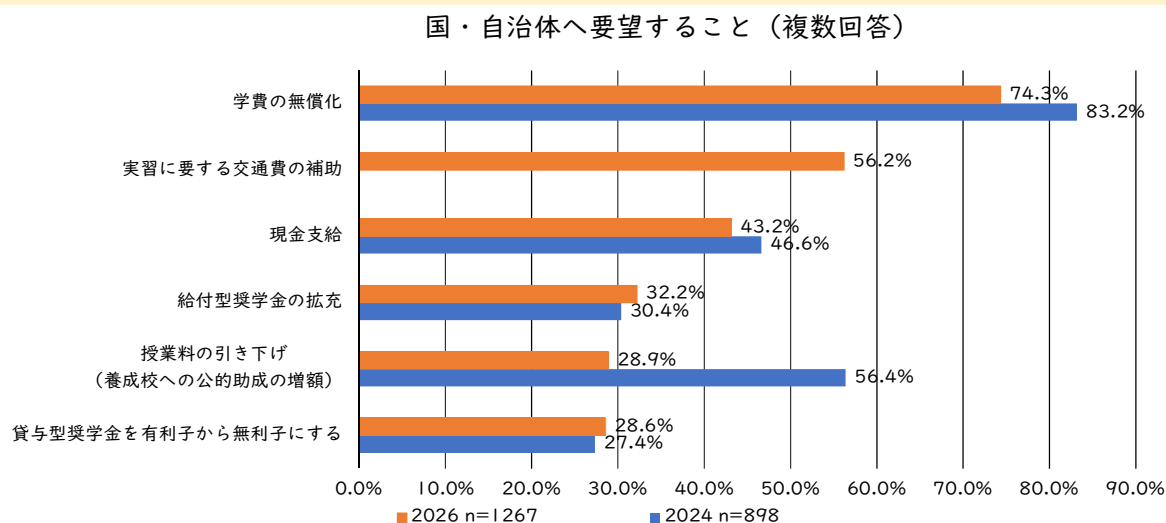
学費が無償になったら何がしたいか？（複数回答）



- ・現場に出て「仕事を覚えていくことができるか」「職場の人間関係にうまく馴染めるか」といった就業への不安が強く存在します。
- ・仮に日本でも学費が無償化された場合、「将来への貯金」「家族の生活費の補填」「学習環境の改善」や「アルバイトを減らす」ことを望む声が多数あります。

8

公的支援への要望



- ・「学費の無償化」を求める声が8割近くに達し、教育費負担の軽減を望む傾向が一層強まっています。
- ・実習交通費補助や現金支給など、生活支援型の公的支援への期待も高まっています。

9

調査結果のまとめと今後の展望

- ・経済的困窮の中でも懸命に看護職を目指している看護学生の姿が浮き彫りになりました。
- ・看護学生への公費の投入は「特権」ではなく、国民全員のための『未来への投資』です。かつての公費投入の姿勢を取り戻すことが、日本の医療と国民のいのちを守る道です。
- ・将来への不安を和らげ、安心して学業に専念できるよう、国や自治体による「学費の無償化」や「実習交通費の補助」といった、より手厚い公的支援（現金支給・養成校への助成増額）の拡充が切実に求められています。

10